

備前市 事務事業 評価表

事務事業名	青少年活動支援事業	コード	03-02-02-03
		担当課・係	生涯学習課生涯学習係
		担当者	波多野 靖成
事業実施期間	平成元年度～	電話	0869-64-1841
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	地域文化と人が輝くまちづくり	
	中項目(基本施策)	生きがいのあるまちづくり	
	小項目(施策)	青少年教育（青少年の主体的活動の促進）	

事業について	
目的 (何のために)	青年協議会及びFOS少年団に補助金を交付し、その活動を支援することにより、ボランティア活動や市の行う事業への協力など、地域社会への寄与を目的とする。
対象 (誰・何を対象に)	備前市連合青年協議会、日生町FOS少年団、吉永町FOS少年団
内容	補助金交付事務及び活動支援。

事業の結果			
実施項目	17年度 回数など (単位)	18年度 回数など (単位)	回数など (単位)
備前・吉永青年団員数	34人	32人	
青年主催行事への市民参加者数	400人	550人	
日生・吉永FOS団員数	137人	136人	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	708	国庫補助金等	708	直接事業費	708	国庫補助金等	708	直接事業費	0	国庫補助金等	0
	人件費	1,415	受益者負担	1,300	人件費	1,300	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	2,123	一般財源等	2,123	合計	2,008	一般財源等	2,008	合計	0	一般財源等	0

必要人員	0.15人	0.15人	
結果指標	結果指標名	青年主催行事への市民参加者数	青年主催行事への市民参加者数
	結果指標量	400	550
	単位	人	人
	対前年比		137.50%
	活動にかかるコスト	1,034,500円	977,000円
	単位当たりコスト	2,586円	1,776円
結果指標	結果指標名	日生・吉永FOS団員数	日生・吉永FOS団員数
	結果指標量	137	137
	単位	人	人
	対前年比		100.00%
	活動にかかるコスト	1,088,500円	1,031,000円
	単位当たりコスト	7,945円	7,526円

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	少子化の中で現状は厳しいが、少年期の貴重なボランティア体験を行えるFOSの確保と、青少年を対象とした自主行事を行える青年協議会員の確保を行っていく。		
成果指標名	FOS・青年会員数	式又は説明	青少年活動への参加者数
	17年度	18年度	
成果指標量	171	168	
対前年比		98.25%	0.00%
到達目標値	180	到達目標年度	平成20年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である (関係法令等：)	妥当性評価<A~E> B 課題認識
	対象の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	備前市における青少年活動の参加窓口として機能しており、FOSは少年期におけるボランティア参加、青年は青少年少女を対象とした事業を企画運営、または市主催行事へのボランティア参加など貢献度は高いものがある。課題は両団体とも少子化と青年層におけるニーズの多様化などにより、会員数の増加が望みにくいものがある。
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である		
効率性の評価	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	効率性評価<A~E> B 課題認識
	手段の最適化	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input checked="" type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	行政が事務局を運営する任意団体が合併・統合に苦慮する中、民間でスムーズに連合組織を発足させた青年は評価すべきであり、一概に人数で論じるべきではないと考える。FOSは地域限定の団の枠を撤廃しない限り、新市のFOS少年団の未来像が出来上がらない。19年度は何らかの形で連合組織へと移行するよう啓発する。
	職場の効率化	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A~E> C 課題認識	
有効性の評価	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	吉永町青年団と備前市青年協議会は18年度に「備前市連合青年協議会」として、市を代表する青年組織を発足させ、行事運営の強化と社会へのPRを図った。またFOS少年団も、合併が市を代表する組織を結成していただきたいと思うが、現状は厳しい。
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

平成19年度の状況	<input type="checkbox"/> 重点化している <input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input checked="" type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	説明 青年協議会は2年目が勝負の年であり、生涯学習フェスタや成人式ボランティアへの参画を昨年以上に図っていく。FOSは補助金支出の一本化を図り、単独団補助を廃止する。	
目標値	結果指標量	600人	結果指標量	140人
	成果指標量	180人		

総合評価	青年18年度に新備前市を代表する組織を結成し、今後の希望が繋がった。県下に於いても特に青年団は減少・消滅する団(会)が多い中、備前市は活動を維持しているし、若者の代表としての市政への参画を期待する。その予備軍としてのFOS少年団は、単独団への補助は廃止し、代表する組織への補助金支出とするなど、効率的な援助を行うようにする。	評価区分<A~E> C
------	--	-------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
--------------	---	---

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	青年・FOS共に合併による統合を促進し、軌道に乗れば補助減を検討する	20・21年度	予算の削減